

わがまち紹介



常陸太田市

持続可能な魅力あふれるふるさと
常陸太田

自然豊かな歴史のまちを 持続可能なふるさとへ

本市の一番の魅力は、阿武隈山系から関東平野に変化する位置にあって、山と平野の特徴を併せ持つ緑豊かな自然に恵まれていることです。加えて、国指定重要文化財や歴史のある史跡や寺院が存在し、また棚倉街道の宿場町として栄えた商業都市であったことなど、歴史と文化のまちであることも大きな魅力です。

わたしが2021年に市長に就任したときに掲げた目標は、「持続可能な魅力あふれるふるさと 常陸太田」の実現です。そのために、大久保前市長から引き継いだ「東部地区の開発・企業誘致」「新総合体育館の建設」「市道0139号線道路整備事業((仮称)真弓トンネル)」の3つのプロジェクトに取り組むとともに、「政策推進重点事項」として「1.安全安心なまちづくり」「2.健康で快適な市民生活の実現」「3.少子化・人口減少対策」「4.活力ある産業づくり」の4つの政策に取り組み、また、社会的な課題への迅速な対応を図る特別施策として、「持続可能な環境づくり・カーボンニュートラル」「デジタル化(DX化)」を推進しています。

災害に強いまちづくり

第一に「安全安心なまちづくり」を目指し、主に災害対策と交通対策に取り組んでいます。

本市では災害時の「逃げ遅れ者ゼロ」を目指し、「避難行動要支援者名簿」の作成を進めていますが、避難支援者が思うように集まらないという課題がありました。

その理由の一つは、支援者も高齢の方が多く、避難行動要支援者を自身の車両に乗せて避難するとき事故を起こしてしまうのではないかと不安に思っていることでした。

そんなとき、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社から包括連携協定締結のお話がありました。その際、何か新たな要素を協定に加えられないかと考え、避難支援者の不安解消について相談しました。その結果、事故発生時には支援者の自動車保険ではなく市が加入する保険で対応するという「避難行動支援者向け自動車等保険」の創設に至り、協定の目玉になりました。

これは全国の自治体初の導入となりましたが、なによりも本市の避難支援者が安心して活動できるようになることを期待しています。



株式会社筑波銀行
太田支店長
石川 昌勝

常陸太田市長
宮田 達夫 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県常陸太田市です。筑波銀行太田支店長 石川 昌勝が常陸太田市長 宮田 達夫氏にお話を伺いました。

市長として市政を預かるうえで、市民の健康や命、財産を守ることが最大の使命です。

わたしは2014年から2021年まで本市の副市長を務めました。在任中の2019年、大型の台風19号により久慈川が決壊し、市内で多くの住宅が床上・床下浸水に見舞われました。まさか本市であるような大規模な災害が起こるとは思ってもみませんでした。

二度と同じような災害を繰り返さないという強い思いで、2024年3月に排水ポンプ車1台を導入、今年度中にもう1台の配備を予定しています。また、固定ポンプ場の設置検討のための調査費を予算化しています。

路線バスの維持と 新交通システムの導入

交通対策については、少子高齢化の進展など、地域の社会情勢の変化に対応した最適な公共交通の維持・確保が必要となっています。

わたしが副市長に就任した2014年当時、市内には路線バス、コミュニティバス、患者輸送バス、スクールバスの4種類のバスがあったのですが、運行ルートや時間帯が重複していました。そこで、4種類のバスに使っていた費用の総額1億2～3千万円を路線バスに補助して一本化し、効率化と利便性の向上を図りました。この取り組みは国からも評価され、国土交通省から表彰されました。

しかし、路線バスへの補助も、利用者の減少による運賃収入の減少などにより、市の予算をオーバーするようになってきました。そこで、路線バスの利用促進策の一つとして、全国で初めて市内の中学生が市内の路線バスを無料で利用できる「フリー定期券」を交付することにしました。2023年度は対象者が927人、延べ利用人数が19,609人となりました。

一方、高齢者などの移動手段の確保を目的にオンデマンドの予約型AI乗合タクシーを導入しています。2024年度には運行エリアを市内全域に拡充しました。また、自家用車に頼らない交通手段の選択肢を増やす目的で、2024年2月に自動運転EVバス「じょっぴー」の定常運行を開始しました。



自動運転EVバス「じょっぴー」

フレイル対策と 新総合体育館の整備

続いて「健康で快適な市民生活の実現」についてです。

本市では市民の医療費の削減を目的にさまざまな施策を行ってきましたが、思うような成果が得られませんでした。そこで、「フレイル(加齢にともない心身が衰えた状態)」を予防することで健康寿命を伸ばそうとする取り組みに力を注ぐことにしました。

2022年4月、健康づくり推進課内に「フレイル対策室」を設置し、現在、フレイル予防活動に参加する総勢60人のフレイルトレーナー・サポーターの体制を整えています。そして、公共施設でのフレイルチェックのほか、訪問による「プッシュ型」のフレイルチェックを全国の自治体に先駆けて実施しています。このプッシュ型が実施可能になったのは、フレイルサポーターの養成を一生懸命行い、体制が整ったからです。

また、市民にフレイルという言葉を知ってもらい、フレイル予防に役立ててもらおうと、誰でも気軽にできる体操として「長生き上手音頭」を制作しました。これは2022年度に元地域おこし協力隊の三味線奏者や市内介護老人保健施設の理学療法士などの協力により制作したもので、一般社団法人日本音楽健康協会主催の「音健アワード2023」で入賞しています。



訪問型フレイルチェック

新総合体育館の整備は、「誰もが気軽にスポーツを楽しみ、夢を育み、賑わいが生まれるスポーツアリーナ」を基本コンセプトとして「小粒でも使い勝手の良い」、子どもたちが将来、こういう体育館があったと自慢できるような体育館を目指しました。整備計画の選定委員には、バレーやバスケット、相撲、スケートなどの専門家を招聘したのですが、このほどドーム型の2つの施設(メイン



新総合体育館完成予想図

アリーナ、サブアリーナ)を中心としたデザインに決定しました。このデザインはわたしも気に入っています。

子育てしたいと選ばれるまちへ

3つ目は「少子化・人口減少対策」です。わたしは茨城県職員時代に、茨城新聞の記者が任地の常陸太田市を離れるにあたって書いた「常陸太田の子育てへの取り組みは素晴らしい」という記事を読んでいたもので、副市長とのお話をいただいたときは、本市で働いてあげたいと思いました。

本市では大久保前市長の時代から、子育て世代に対する支援メニューが数多くありました。それらをより効果的に実施するため、体系化し、事業実施と効果測定をセットにしたアクションプランを作成しました。

支援の特徴の一つは、結婚から妊娠、出産・子育て期までの切れ目のない支援です。

未婚率が高い本市の状況を踏まえ、結婚相談センター「YOU愛ネット」を設置するほか、県と連携したAIマッチングシステムを導入、婚活イベントやセミナーなどを開催しています。

節目ごとに出産・子育て応援給付金や入学・卒業祝い品給付などを行うほか、子育て環境の充実を目的に、市内小学校への学童保育の配置や子育て支援施設「じょうづるはうす」、子ども家庭センター「ここキララ」の設置、子育て支援「じょうづるアプリ」の提供などを行っています。

移住・定住の促進にも力を入れています。移住・定住相談室を設置し、本市への移住希望者の相談対応や各種情報の提供を行っています。移住者の住まい探しにも積極的に関与し、住宅取得促進助成、新婚家庭への家賃助成、定住促進住宅「ファミリーくじらヶ丘」の整備、市有地無償譲渡(里美白幡台団地)などを行っています。

こうした取り組みの成果として、2024年度の小学校入学者数は、その児童が生まれた年の本市の出生者数を上回っています。他地域からの移住のほか、本市出身者がお子さんの小学校入学を機に本市へ戻ってきていることが考えられます。

喜ばしいこと



地域デジタル通貨に取り組んでいます。

に、本市は田舎暮らしの本「住みたい田舎ベストランキング」2024年版の北関東エリア総合部門で第1位を獲得しています。

東部地区開発と地域ブランド力の向上

最後は、地域経済の活性化や交流人口の拡大に欠かせない「活力ある産業づくり」についてです。

「東部土地区画整理事業」により開発が進む東部地区では、2023年春、A街区にフォレストモール、B街区にカインズがオープンし、多くの買い物客で賑わうとともに436人の雇用を創出しています。C街区には「官民連携複合施設」の整備を進めています。この施設は、事前に市民アンケートを実施し、必要なお店として挙げてもらった書店、喫茶店を核にしたものです。現在、区画の約80%の利用が決まっており、引き続き商業・業務系施設の誘致を進めています。

また、地域ブランド力の向上を目的に「チーズプロジェクト」に取り組んでいます。この取り組みは、2017年に地方創生推進交付金を活用してスタートしました。「常陸太田チーズ製造・商品化プロジェクト協議会」を立ち上げ、メンバーとしてチーズやワインの専門家、飲食店関係者など食のプロに集まってもらい、つくるチーズの種類や販売先などの検討を重ねました。そして旧学校給食センターを活用した「ひたちおたチーズ工房」で、酪農の盛んな里美地区の新鮮な生乳を使ったナチュラルチーズの製造を開始しました。

生産したチーズは、2年に一度開催されるジャパンチーズアワード2022で金賞を受賞しました。2023年12月に水戸市で開催されたG7茨城水戸内務・安全担当大臣会合では本市産のワインやチーズが2回にわたって各国の大臣に提供されるという栄誉にあずかりました。こうしたことが生産者の励みにつながっており、狙い以上の効果がありました。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、地方銀行として中小企業の育成や一般市民とのお取り引きに力を入れていただきたいと思っています。

また、わたしは「地方の文化は地方の新聞社と地方の銀行が育て上げていくもの」だと考えています。地方新聞と地方銀行が元気なところは、文化が濃密に育成されていきますので、地域に密着した銀行として、地方の文化振興の役割を担っていただきたいです。

筑波銀行とは2013年に「常陸太田市の地域振興に関する協定書」を締結し、市政発展に協力していただいています。引き続き「持続可能な魅力あふれるふるさと常陸太田」の実現にご支援・ご協力をお願いします。

(取材日:2024年8月6日)

わがまちの 特産品



常陸太田市

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

常陸太田市では、特産品の開発やリブランディングによる地域ブランド力の向上に取り組んでいます。本コラムでは、特産品のなかから新しい名物として期待される「ひたちおおたチーズ」と本市が発祥の地である「常陸秋そば」を紹介します。

ひたちおおたチーズ

常陸太田市の新たな特産品として注目を浴びているのが、ナチュラルチーズの「ひたちおおたチーズ」。酪農が盛んな里美地区の新鮮な生乳を使い、「ひたちおおたチーズ工房」のスタッフが一つひとつ大切に手づくりしています。それぞれ個性的なチーズは、モッツァレラ、フロマージュブラン、カチョカヴァッロ、ストリング、さとやまの5種類。商品は、ひたちおおたチーズ工房や道の駅ひたちおおた、水戸京成ホテルなどで販売されているほか、市内外の飲食店の料理に使用されています。

国産のナチュラルチーズを品評する2022年の「ジャパン・チーズ・アワード」で、「モッツァレラ」が金賞を受賞。2023年12月に水戸市で開催されたG7茨城水戸内務・安全担当大臣会合で本市産のチーズが提供されるなど、本市のブランド力の向上に貢献しています。



モッツァレラチーズ



ひたちおおたチーズ工房



チーズ製造作業風景

常陸秋そば

常陸太田市は、山地特有の昼夜の気温差が大きい気候と傾斜地に拓いた畑の土壌を生かし、良質なそばの産地として江戸時代からの歴史があります。いまでは「常陸秋そば発祥」の地として知られ、香りと風味、甘みなどすべてに優れた本市産の常陸秋そばは、各所から高い評価を得ています。

本市では現在、常陸秋そばリブランド化事業として、常陸秋そば発祥の地のモニュメント整備をはじめ、市内24店舗のそば店で構成する「おそば屋さんの会」と連携した本市産の常陸秋そばのPR、県外の有名そば店に本市産の常陸秋そばを提供するなどの取り組みを行っています。



そば料理 つげけんちんそば



市内のそば畑



そばの実